

関連学会印象記

INFA Taipei Symposium

公文啓二

INFA (International Faculty for Artificial Organs) の台北シンポジウムは、1995年11月13日、第10回国際人工臓器学会 (ISAO) の前日に台北 Grand Hyatt Hotel で行われた。

Main Topic として I. Inventions and devices for blood purification および II. Clinical applications of medical gas and function water の2つのテーマが採用され、4つのLecture、3つのWorkshop および34のポスター発表がなされた。

午前9:00、Dr. Klinkmann (INFA Dean) および Dr. Nose (INFA Vice Dean) の Opening Remarks のあと、午前中は3つのLectureが行われた。Lecture I は大阪市立大学岸本教授による「Is bacterial contamination of the dialysate a problem?」、Lecture II は昭和大学藤丘病院の秋沢先生による「Current topics in the treatment of renal osteodystrophy」、Lecture III は、国立循環器病センター 巽先生の「Novel approaches to long-term ECMO」の Main Topics I に関連するもので興味深い講演であった。午後からは Main Topics II に関連するもので、MGH の Dr. C. Alvin Head の Lecture 「Nitric oxide and the lung」に引き続き、Workshop for medical gas and function water が行われた。Workshop-I は「NO inhalation」と題し、神戸大学尾原教授の司会の元でNO吸入療法に関する5つの演題が発表された。Workshop II は「Medical gas」と題して帝京大学市原病院森田教授の司会のもと Xenon 麻酔、イソフルレンによる long-term sedation およびヘ

リウム酸素吸入療法などの医療ガスに関連する話題が議論された。Workshop III は「Function water」と題して、強酸性電解生成水に関する4演題と電解イオン化カルシウム水に関する1題の発表がなされた。医療用ガスと機能水に関する国際的な会議は、おそらく初めての試みであり、いずれのWorkshopにおいてもこの分野における興味ある内容の発表が多く、活発な討論がなされた。

ポスターセッションでは、北海道大学の三浦看護婦および国立循環器病センターの岸添看護婦の発表をはじめ、臨床工学士の方々の発表も数多く見られ、INFA の意義のひとつである Paramedical の方々の教育という面でも十分目的が達成されたと思われる。

主催者側は当初120~130名程の参加者を見込んでいたが、実際には200名を越える参加者が集まり、多くは日本人の参加者であったが台湾をはじめ韓国、ヨーロッパおよび米国など予想外の参加者も集め、盛会であった。

Closing Remarks では、第10回国際人工臓器学会会長である C. J. Lee 教授の感謝の念も寄せられ、幕を閉じた。

今回の Workshop でとりあげられた Medical Gas と Function Water に関する国際交流の場はなく極めて斬新な試みであった。今後、継続的にこの分野特に医療ガスの国際交流を温める目的で、会期中に International Society for Medical Gases (仮称) という国際学会の設立が提案されたことを付記する。